

巻頭言

資格試験とコンテスト

自分の仕事に自信を持つのは大事だが、本当の実力を客観的に知るのは意外に難しい。自分は正当に評価されていないと不満を持つ人は少なくないが、客観的に評価すると本人の自己評価が過大である事が多い。世の中には自分の実力を嫌でも思い知らされ、それが収入や昇格、時には減収や降格、失業に直結する職業がある。勝負がランクと収入に直結するプロスポーツ選手、業績が昇格や賞与に反映される営業職、ギャラに桁違いの格差があり、評価されなければ全く声が掛からない芸能人などである。

資格が必須の職業では資格試験に合格し、場合によっては一定の実務経験を積む事により実力が証明される。パイロットは航空機の型式毎の操縦資格が求められる他、定期的に技能審査や訓練を受けなければならない。航空管制官は基礎研修の修了後、管制業務の種類と特定のセクターやポジションに対応して個別のレーティングを取得しなければならないが、合格点以上の部分は経験年数や日頃の仕事ぶりなどの間接的で主観的な指標でしか評価出来ない。主任、主幹、次席、前任と云う職制の差はあるが、柔剣道や囲碁、将棋などのような、競争相手と勝負して実力を証明すると云う段位制ではないからである。

一般的には実務経験を積み知識が増え業務遂行能力も高まると考えられるが、実際には個人差がある。途中でスランプになる人や伸びが頭打ちになる人もいれば、大器晩成型で年月を経て最終的に非常に高いレベルに達する人もいる。逆に、慣れに安住して努力を放棄する人、加齢等によって能力が低下する人もいる筈である。だから経験年数は必ずしも実力に比例しない。資格試験では得点が本人に通知されたり順位が公表されたりする事はあるが、多くの場合、すれすれの合格者と満点の合格者の区別はつかない。

一方、入学試験や採用試験のように合格枠が決まっている場合は、他の受験者との相対的な差が問題になる。面接でも他の受験者との比較で評価される。同じ実力でも他の受験者のレベルによって合否が変わるのだ。また、コンテストの場合はトーナメントやリーグ戦で参加者同士が勝負したり、演技の相对比较をしたりして順位を決め、チャンピオンを選ぶ。ホテルやレストランの業界では覆面調査員が評価し、採点結果を星の数で公表する仕組みがある。こうした実力を競い合う仕組みは個人の能力向上の大きなモチベーションになるだけでなく、その分野全体のレベル向上に大きな貢献をしている。

航空管制の世界でも技能コンテストのような事は出来ないだろうか。航空管制官は法律規則と業務処理要領を守って業務を行い、安全で秩序正しい航空交通の流れを維持するのが当然で、評価される機会は殆どない。極めて稀に起きる異常事態への対応を除けば、毎日同じような仕事の繰り返しである。だから、義務付けられた研修や訓練以上の個人的な勉強や研究・工夫を継続的に行う動機が少なく、努力の成果が評価される機会も中々ない。訓練用シミュレータを使えば、日常的には滅多に起きない様々な状況を繰り返し正確に再現して客観的で公平な評価が出来るだろう。管制業務の区分毎にチャンピオンを目指す知恵比べや腕比べの制度が出来れば素晴らしいと思う。